慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

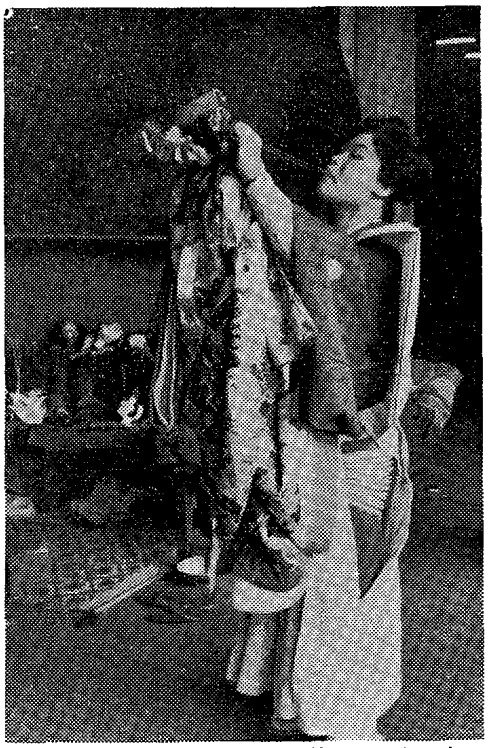
Title	乙女文楽：神奈川県茅ヶ崎市に伝存
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1962
Jtitle	史学 Vol.35, No.1 (1962. 6) ,p.148- 148
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19620600-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

乙女文楽（神奈川県茅ケ崎市に伝存）

文楽と云えば、誰れも大阪の文楽を想い出すのが普通であるが、湘南の茅ケ崎に乙女文楽と云うものがあり、戦後であるが、其の一座が土着して今は市の名物の一つになっている。茅ケ崎市堤に墓所のある江戸の名町奉行大岡越前守忠相の遺徳を偲んで近年来、毎歳四月に市を挙げての大岡祭の催し物として、この乙女文楽が公演されている。しかし一座の創立当時は人形使いは皆な乙女であったが、年と共に他所に嫁入りし、今日では座元の宗氏一族の概ね中年を過ぎた人々六、七名位で、辛じて其の演技を保持しており、進んで後継者となる者もなく、将に亡びんとしている。



よって人形に就ては全く知識のない筆者が茅ケ崎の住人としてこの乙女文楽の大要を紹介する。

大阪の文楽其他は一人の人形使いの外に二人のくろんぼ（黒頭巾）と称する介添がおるが、この乙女文楽は人形一体を一人で扱う独得のものである。この座長の桐竹智恵子の父、宗政太郎は福岡県糸島郡桑原の出身で、其の祖父政五郎が同部落に伝わる桑原人形の使い手であった関係から、子供の頃より教えられ、長じて大阪の文楽の太夫について義太夫を修業して生栄太夫の名を貰った。後に人形の一人使いを考案した井上政次郎一座を手伝う内に井上政次郎は歿して、其の一座を引き受けることになり、更に使い方に考案を重ねたが、時勢のため解散することとなった。しかしその娘達がその演技を桐竹門造について修業したのち、乙女文楽と名のりあげて公演することとなった。父政太郎は後見役としてこれを指導し、また「あいびき」と称し、くろんぼ姿で演技中に人形使いの腰掛を見物人にさとられぬようサット出し入れしたり、鐘太鼓など鳴り物の方をつとめている。この人形使いの特徴は人形の両耳と使い手の両耳とを糸でつないで、使い手の頸の動きが自ら人形の頸の動きとなり、人形の足は使い手の足部につけれて、使い手の動作が人形の動作となる仕組みとなっている。

因に宗政太郎氏は既に七十八才で病身のところ、数日前に交通事故で重態と聞き、其の全快を祈ると共に娘の座長桐竹智恵子さん等から聞いたことを本誌の餘白を拝借して記述した訳である。なお、この乙女文楽は茅ケ崎市無形文化財指定の候補にあがっているものである。（昭和三七、六、三　武田勝蔵）